

第7代中部方面混成団長着任



MACB
QRコード

編集・発刊

中部方面混成団
本部広報室

Tel.077-523-0034

平成二十九年八月一日、中部方面混成団長兼ねて大津駐屯地司令に國友 昭（くにとも あきら）一佐が着任した。
団長は、着任式で統率方針として「任務完遂」を、要望事項として「感動・感激・感謝」を掲げ、着任後は、隷下各部隊を精力的に視察し、部隊の現況を把握した。

◆経歴

- 幹部候補生学校（前川原）
- 第四普通科連隊（帯広）
- 第七普通科連隊（福知山）
- 第三師団司令部第三部（千僧）
- 幹部学校付（市ヶ谷・目黒）
- 普通科教導連隊第二中隊長（滝ヶ原）
- 陸上幕僚監部防衛部（檜町）
- 幹部学校教育部（目黒）
- 中部方面総監部防衛部（伊丹）
- 幹部学校付（目黒）
- 幹部学校教育部（目黒）
- 第十三旅団司令部第三部長（海田市）
- 第二十二普通科連隊長（兼ねて多賀城駐屯地司令）
- 第十二旅団司令部幕僚長（相馬原）
- 自衛隊京都地方協力本部長
- 第十四旅団副団長兼ねて
- 善通寺駐屯地司令



★ 統率方針 「任務完遂」

★ 要望事項 「感動 感激 感謝」



着任式に整列する各部隊



巡 閲



団長出迎え



第六代混成団長 佐藤 正典一佐は平成二十九年八月一日付で陸将補に特別昇任し、永年にわたる自衛隊生活に別れを告げた。
団長着任にあたり「情熱」「凡事徹底」「創意工夫」を要望し、混成団創隊以来初となる連隊訓練検閲の実施、また年々増加する被教育者の受入れ基盤整備等を推進、七月三十一日の離任式・見送り行事では、晴天のもと、駐屯地全隊員の盛大な拍手で見送られ、大津駐屯地を後にした。



佐藤一佐 離任・退官

平成29年度 第2次団訓練検閲

第47普通科連隊 訓練検閲受閲



《連隊長要望事項》
 空き残り、かつ戦え
 防御戦闘実施上着意
 すべき事項の実践
 「非戦闘損耗の防止」

混成団は平成二十九年十一月二十二日から二十五日までの間、日本原演習場（岡山県勝田郡）において、第四十七普通科連隊の第二次訓練検閲（統裁官 混成団長）を実施した。本検閲は、九月実施の指揮所活動を対象とした第一次検閲に引き続き「増強普通科連隊の陣地防御」を実動で検するものであり、即応予備自衛官二四四名を含む四三三名が参加した。

昼夜間の寒暖差の激しい状況で、四十七普連の隊員は、連隊長の三つの要望事項を実践するとともに、積み重ねてきた練成成果を遺憾なく発揮し、適時適切な指揮幕僚活動、隊員の基礎動作、協同部隊との連携を行い、連隊一丸となって任務を完遂した。

状況終了に伴う講評の後、本訓練検閲間の功績を称え、統裁官より常備自衛官、即応予備自衛官十二名が優秀隊員として表彰された。



平成二十九年年度第二次募集期 自衛官候補生(男女) 入隊・卒業

九月五日、第一〇九教育大隊(大隊長 佐伯二佐)に入隊し、約三ヶ月の教育を終えた自衛官候補生一〇九名(男子九二名 女子十七名)が、十一月二十六日に修了式を迎えた。

残暑が厳しく木々が青々としていた九月から、紅く色づき季節がひとつ進んだこの三ヶ月間で、基本教練や戦闘訓練及び小銃射撃など自衛官としての基礎を学び、二十五キロ行進訓練や体力検定などでは同期で声を掛け合い、お互いに切磋琢磨する姿が見られた。

十二月一日、真新しい二等陸士の階級章をつけて後期教育を担当する北海道・留萌(るもい)から、広島・海田市(かいたいち)までの各地に向かう出発に際して、同期で固い握手や抱擁を交わし、次なる任地での活躍と、再会を誓い合う光景が見られた。



着隊受付



大津駐屯地着隊



被服適合



入隊申告



入隊式



ガス体験



体力検定



基本教練



歩哨訓練



小銃射撃



戦闘訓練



後期部隊出発見送り



修了式



25Km行進

連隊情報管理検査



第四十七普通科連隊



連隊（連隊長 高山一佐）は、善通寺駐屯地で十月十六日、海田市駐屯地で十月二十三日から二十六日までの間、情報管理検査（後期）を実施した。

連隊長は、「各中隊長の監督・指導の下、合規適正な業務が遂行されていることを確認した。今後、情報管理、特に行政文書管理が益々厳しくなることを鑑み、現状に甘んじることなく、一歩でも今の現状をより良くしようとするのが大切である。」との所見を述べた。日頃厳しい保全環境の中において即応予備自衛官も含めて意識の高揚を図り情報流出の未然防止に努めてゆく。

曹長 太田 徹浩
(10月6日付)



曹長 岡田谷常和
(10月20日付)

定年退官

准尉 鶴田 裕一
(11月14日付)

連隊は、平成二十九年十月二日から六日までの間、防災応急対処訓練を実施した。部隊当直を通じ状況を付与、緊急登庁訓練を行い、連隊全隊員の登庁時刻を掌握及び時間の経過に伴う部隊の戦力化状況を把握した。人命救助システム訓練では鋼材、木材及びコンクリートブロック等の廃材を活用して機材の操作要領を演練した。



第3次中隊訓練検閲



第四十九普通科連隊



常備・即自が一体となって実射検閲に臨む。

連隊（連隊長 前野一佐）は、第七次即応予備自衛官招集訓練の一環として、平成二十九年十月三十一日から十一月六日までの間、あいば野演習場（滋賀県高島市）において第三次中隊訓練検閲（重迫撃砲中隊）を実施した。

本検閲は、教育訓練の成果を評価するとともに、その進歩向上を促すことを目的として行い、重迫撃砲中隊長（南出 安文 一尉）以下六十名（即応予備自衛官三十七名を含む。）が、課目「陣地防御に任ずる重迫撃砲中隊の行動（防御準備及び陣地変換を含む実弾射撃）」について受閲した。

状況間、重迫撃砲中隊は中隊長を核心とし、連隊の作戦に最大限を尽くすべく中隊が最大限の準備期間を最大限に活用、所要の偵察・火力調整等を綿密に行うとともに堅固な陣地を構築し（撃）に於いては、天候等各種の悪条件の影響も十分に結果ではなかったものの、第一線部隊の戦闘に密接かつ継続的に火力協力すべく、常備自衛官・即応予備自衛官が一体となって、任務完遂に向け全力を注いだ。



中村即応予備三曹、隊員自主募集の功績により第五級賞詞受賞

連隊は、平成二十九年十月十三日、平成二十八年年度の隊員自主募集（年度を通じ二名入隊）の功績により、第五中隊所属の中村玄久（なかむら はんひさ）即応予備三等陸曹に対し第五級賞詞を授与した。中村即応予備三等陸曹は、昨年度四名（知人）の入隊志願者に関する情報を提供し、うち二名が今年度の入隊に至っている。今回の受賞にあたり中村即応予備三曹は、「中隊の機会教育を通じて隊員自主募集の制度を知り、自衛隊に興味を示す知人を紹介しました。現役時及び即応予備自衛官招集訓練での体験談をもとに自衛隊の魅力を引き続き若年層の国民に広報し、後輩隊員の獲得に尽力出来るよう努めたいと思います。」と話していた。



連隊として初の賞詞及び防衛記念賞を受賞した中村即応予備三等陸曹

第1期最先任上級曹長課程16名着隊

第四陸曹教育隊



隊（隊長 井川二佐）は、十一月十六日から第一期最先任上級曹長課程教育を開始した。

本課程教育は、昨年度まで集合教育であったが今年度から新たに課程教育となり、「足腰の強い部隊の屋台骨たる陸曹を育成する役割を担う」とともに、「最先任上級曹長としての資質である、実行力・責任感・指導力・判断力・企画力・感化力を養うとともに、職務遂行に必要な知識及び技能を修得させる。」を目的に行われるものである。学生十六名は約三ヶ月間修学する。



第1期最先任上級曹長課程入校式

3 四半期各課程・行事フォト



情報管理検査



第20期中曹総合訓練



第189期上曹体力検定



第131期初曹素養試験



第132期1次候補生障害走



第64期英語在日米陸軍LO教育



会食にてご家族とふれあう隊員達

第一〇九教育大隊



平成二十九年年度予備自衛官補等
招集教育訓練実施

大隊（大隊長 佐伯二佐）は八月から平成二十九年年度予備自衛官補招集教育訓練及び予備自衛官招集訓練を実施中である。
今年度も北陸から中四国にかけ幅広い年齢層の志高き隊員達が出頭し、日夜訓練に励んでいる。
基幹隊員一同、隊員育成に尽力するとともに、強い信念を持って一月末まで教育を実施していく。

成長した若人、いざお披露目

平成二十九年年度第二次募集期
自衛官候補生課程家族見学会開催

大隊は、平成二十九年十月二十一日、第二次募集期自衛官候補生のご家族に対して、家族見学会を実施した。

このたびの見学会では、隊員ご家族約一〇〇名の方がお越しになり、基本教練練度判定、観閲行進自衛体操を観覧された。自候生達は、入隊から成長した姿を遺憾なく発揮した。

この日はあいにくの荒天の中であつたが、ご家族は逞しい隊員の姿を目の当たりにし、驚きと感動の表情であつた。



教育に励む学生達





平成29年度 予備自衛官補等招集教育訓練終了



大隊（大隊長 藤井二佐）は、平成二十九年七月から平成二十九年七月予備自衛官補招集教育訓練（述べ百十八名）及び予備自衛官（技能）招集訓練（述べ四十五名）を実施し、各種検定や訓練を行い各人が知識と技能の習得及び維持向上に努めた。中四国を中心にやる気に満ち溢れた隊員が出頭し訓練に励み、このうち三名が全ての予備自衛官補招集教育訓練を修了した。今後三名は予備自衛官として活躍する予定である。

なお、十月三十日をもって善通寺における訓練を全て終了した。

部隊移動に関する 家族説明会

大隊は、十一月二日・五日に部隊移動に関する家族説明会を実施した。

説明会には二日間で十三家族四十名が参加し、大隊の概要・体制移行の概要・松山駐屯地及び官舎周辺の生活環境並びに共済事業等の説明を行った。

隊員家族からは移動に伴う転居の時期などに関する質問があり、担当者から丁寧に説明して不安の払拭に努めた。

また、説明会に併せて家族会の趣旨を説明し入会を促した。



「新しい形の教育」最先任上級曹長

今年度五年ぶりに平月新隊員教育を実施しました。春の新隊員とはやや違い、新卒者中心ではなく、再就職として自衛官を選択し、志を高く持って入隊した隊員も多くいました。今までの生活や勤務環境を変え、人生にとって一大決心だったと思います。自分を厳しい環境におき「国を守る」「身を持って責務の完遂に努め国民の負託に応える」気持ちを持ち行動してくることに感謝したいと思います。

今回の自衛官候補生教育の特色は、男女混合での教育でした。春の教育は男女の採用区分が違っているので教育を合同で実施することが出来ませんが、採用が同じで男子九二名の中に女子十七名が入っていました。教育開始前は色々心配していましたが、始めてみると、男子は女子に負けないように、女子は男子に負けないようにお互いを刺激し合い切磋琢磨して、非常に良い光景で清々しく思いました。女性の活躍が求められる時代に最先端の教育が出来たと感じました。今回貴重な経験をした隊員たちが後期教育部隊で更に活躍し後輩の育成に尽力してもらえれば更に強靱な自衛隊が創造できると期待しています。

快挙！ 2回目！！ 中部方面創隊 記念行事ポスター 47連隊 越智2曹作品 採用される！！

中部方面創隊記念行事のポスターをご覧になったことはありませんか？ポスターは方面管内の隊員より作品を募集し、毎年選考によって決定されています。

今年度のポスターは混成団隷下の第四十七普通科連隊広報陸曹 越智将勝二曹の作品が採用されました。越智二曹の作品が中部方面創隊記念行事のポスターに採用されたのは今回が二度目であり、方面隊より記念品が贈られました。

この他にも、今年度の中部方面混成団創隊記念行事ポスターも越智二曹の作品が採用される等、広報活動への多大な功績により、十一月二十六日、混成団長より褒章状が授与されました。

方面総監感謝状受賞

十月七日、中部方面隊創隊記念行事に際して、大津自衛隊協力会理事の土手下春江様、四十九連隊後援会長の塩田雅章様が、防衛基盤の育成等の功績により方面総監より感謝状を授与されました。



塩田会長ご夫妻



土手下理事

おめでとうございます



第一〇九教育大隊 部隊表彰

第一〇九教育大隊（大隊長 佐伯二佐）は、平成二十九年十一月二十六日、混成団長より、第三級賞状の表彰を受けた。

大隊は、佐伯二佐の統率のもと、被教育者の特性に応じた教育訓練を実施し、真に役立つ隊員の育成に尽力し、特に年々増加する被教育者の受入れ基盤の整備及び各部隊の臨時新隊員教育隊要員の教育内容の充実、第一〇〇教育大隊の善通寺から松山への移駐準備間の予備自補教育を実施、また広報映像「新入隊員教育の歩み」を作製し、隊員ご家族および各地方協力本部を通じて部隊の理解促進に寄与する等の功績が認められ、このたびの受賞となった。



団長より表彰をうける第109教育大隊長



第四十九普通科連隊長

前野一佐 着任

平成二十九年八月二日、豊川駐屯地において中部方面混成団長（國友一陸佐）立会のもと、第八代四十九連隊長 前野直樹（まえの なおき）一等陸佐の着任式を執り行った。

着任式において前野連隊長は、統率方針を『任務完遂』とする点にも、要望事項に『連携』『実力』『創意』の三点を要望するとともに、力強く所信を述べた。



第四十九普通科連隊長

茅野一佐 離任

約二年にわたって第四十九普通科連隊長の指揮を執った茅野一佐は、平成二十九年八月一日付で連隊長の職務を全うした。着任以来、「即応」「練磨」を要望事項に掲げ、連隊創隊以来初の連隊訓練検閲をはじめ、連隊の精強に尽力した。

離任式及び豊川駐屯地転出行事において隊員に別れを告げた。次なる勤務地は愛媛地方協力本部で指揮を執る。



第一〇九教育大隊長

西川二佐 着任

平成二十九年十二月一日、第二十九代一〇九教育大隊長 西川 朋之（にしかわともゆき）二等陸佐の着任式を執り行った。

着任式において西川教育大隊長は、統率方針を『教えかつ闘う』とし、『熱意と愛情』『基本・基礎の徹底』『率先垂範・活模範』を要望した。また着任式終了後は精力的に部隊の現況を視察した。



第一〇九教育大隊長

佐伯二佐 離任

三年にわたって第一〇九教育大隊の指揮を執った佐伯二佐は、平成二十九年十二月一日付で教育大隊長の勤務を終えた。離任式で佐伯二佐は、大粒の涙を流しながら教育大隊の隊員一人ひとりに言葉をかけつつ記念品を手渡し、感謝の意を表した。

在隊間においては、「新入隊員教育の歩み」を作成し、部内外広報にも尽力した。平成三十年三月十三日付で定年退官を迎える。

